

**北の物販倶楽部
謁見音声 書き起こし資料**

2016年4月23日 謁見収録

はじめに

◎【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReaderをダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

◎【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。下記の点にご注意戴きご利用ください。

- ・このレポートの著作権は『北の物販倶楽部』に属します。著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。
- ・このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。
- ・このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。
- ・著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。
- ・このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。
- ・このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。
- ・このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

北野会長：

はい、っていうことで（乾杯）

メンバー一同：

はいー！（乾杯）

北野会長：

んで、調子よかったもんで今日はちょっと・・・おれ本業が薬屋なんよ。だもんで、ネット見とったらさ、アルツハイマー。それからジストロフィーそれとなんかの治験をやっとる会社とぶつかってさ。んで、その会社調べたら何もないんやて。それを見たら親会社が〇〇。7好きやろおれ。

真田孔明：

はい。

北野会長：

それでその株をなんと53円やったけ。53円で5万株買うたんや。

真田孔明：

5万株も。

北野会長：

よくね、ボロ株は大きく買っていくがやて。万が一ほ、こんぐらいの時もあるやろ？世の中やから、四日目の相場かな・・・

真田孔明：

あ、53円なんですね。

北野会長：

そう。だからボロ株なんやて。

真田孔明：

倒産寸前ってことですね、50円ってことは。

北野会長：

そうそう。もう原価やろね。そして、4日目にストップ高になってしまっさ。20円・・・

真田孔明：

えー！

北野会長：

やっぱ欲やね、おれ。売ったもんね、全部。

真田孔明：

へー！いくらぐらいになったんですかね？53円が・・・

北野会長：

70円。70円でストップ高。で、嫁はんにさ、「売れ、売れ」って。おれも欲やなあと思ってさ、われながら。居合の男やから早いんやて。

真田孔明：

それ外国の株ですよ。

北野会長：

んな、日本の株や。

真田孔明：

日本か。

北野会長：

だから毎日Tを、最初T売ればっか言っとったんや。

サッチェル：

最近は。

北野会長：

そう。あれ帰ってきてからずっとそれ。で、円高になっとったやろ？

サッチェル：

下がりましたよね、Tね。

北野会長：

だから売っとったんや。ずっと。んで今度見たら円安に今度ふれるいうて、言い始めたやろ？今度は買え買えって。朝買って、2時間も持たんと売っとる。

真田孔明：

へーすげえ！

サッチェル：

今111.5まで円安になってます。

北野会長：

うん、だからこういう時はいつも言っとるやん。Tは1円、為替が。例えば109円から110円のこの1円で330億銭が、利益が。たった1円で。だからTが一番動くわけよ。円安円高には一番、自動車株は全部そうやる？日本でなんて車売れとらんのやから。もう頼みはアメリカだけ。アメリカに頼って生きとるんやから。

真田孔明：

今年中にそういえばTが、僕がこの前までいたトランスからテキサスの郊外に引っ越して、それだけで人件費が40%ぐらい安くなるみたいですね。税金もひどくて、すごいカリフォルニア高いみたいなんですけどあっちとかすごい安いみたいで。

北野会長：

本当？でも、おれのね50円の株ならね、100そこそことか丈夫で長持ちするんやて。あとはね、あんまし持ちがよくねえんや。持たね、おれは。なんでかっていうと、例えば50円の株は全部損しても50円やよ。5000円の株はさ、全部損はせんでもさ、やっぱ500円下がったらショックやる？ま、おれの感じからいうと。だから仕入れたら早く売る。在庫決済が早いんやて。

サッチェル：

なんか今先物が17800円ぐらいまで上がってきてるみたいなんですけど、いっちゃうんですかね、この後。

北野会長：

おれの予想やよ。これは一気にいくな。

サッチェル：

この後一気にいきます？

北野会長：

これは一気にいくんでないかなと。いやいや、おれもそう思ってるけど我慢ができんタイプなんやて。早漏やもんで。

真田孔明：

(笑)

北野会長：

いや、絶対そうやよ。

サッチェル：

一気にいきそうですか。空売り持ってるんですけど（笑）最近会長に先月聞いてなんか最近調子がいいですよ。

北野会長：

なんとなく空売りで「ぱっぱっ」っと切ったから、「お！野郎、東京で言っとただけあってね」

真田孔明：

剣筋が良くなってきてる。

サッチェル：

空売りぱっぱできるようになったんですよ。笠斬りですよ。笠の方ですよ。

北野会長：

いや大したもんやよ。いや、笠ができるようになれば、銭儲けは簡単や。あとはだから何をヒントに買いに向かうか売りに向かうかだけやから。おれはね、今の先物。1日頃から外人がダーっと買いあがるとるやろ？で、昨日あたりで少しずつ食っていったるんやないかなあと思っとる。ね。なんかそんなような気がする。でもね、あれはまだね、外人は欲やから、おれは積み上げていくような気がするんやて。

真田孔明：

ちびちびと。

北野会長：

うん。ダーっとこうやって買いあがってって・・・

サッチェル：

でドーンっとやると。

北野会長：

そう！外人はこれしか勝てんが。あんたたち相場やっとなるが。従業員おらんやろ？そやろ？ヘッジファンドは従業員おるんやから。

サッチェル：

あーなるほど、経費かかる。

北野会長：

そりゃね、みなさんみたいにちゃっかちゃっかいうて手数料ぬいottaって飯食うていけんわけよ。ばさっと切らにゃ。ばさっとはここではきれんのやて・・ね？やっぱドカーンを狙っとるわけや。だから彼らは買いあがっていくやろ？買い上がっていくやろ？日本人も今みんな円安になるし、大丈夫やな、大丈夫やな、で買い上がるやろ？ね？下がって、例えばどっかで悪い材料・風が吹いてくるのを待ってるやん、野郎どもは。で、第一弾のドッカンをかけるわけや。ね？ドッカンって少しな。300円から500円。ドッカンを一発かけるんやて。このここで一気にだーんと落とすんやて。持っとる玉を全部売ってくるわけやから。わかった？直滑降や。だからおれは、辻斬りと言っとる。笠斬りはこうやて。

サッチェル：

僕はまだそこですね。

北野会長：

だから辻斬りはまっすぐやて。このイメージさえ覚えとけば。

サッチェル：

会長はどのくらいまで駆け上がることを想定されてるんですか？

北野会長：

いやいや、それはさ外人も絶対に風がどっかから悪い風が吹いてこんとだめなんやて。中国が悪いとか。

サッチェル：

それまでは上がっていくんですか？

北野会長：

そうそう。ギリシャが悪いとか。原油が値下がりしたとか。いっぱい悪い材料をこう積み上げるんやてね・・ヘッジファンドは。んで「日本がだめや」と。で結論がドーンてくるわけやろがいよ。だからこないだタイでやったように、占い師が来てさ、これってのはないわけよ。覚えといて。わかった？

真田孔明：

みんなが「暴落だ暴落だ」とか「崩壊だ」とか。

北野会長：

もっと面白い。日本の政府が5兆円負けたやろ？年金資金。

メンバー：

あー負けましたね。

北野会長：

見た？

真田孔明：

はい。

サッチェル：

見ました。

北野会長：

5兆円負けたんやと。なんで負けたのかってのはわかる？

メンバー一同：

(沈黙)

北野会長：

ここらがね、まだねうちのこの会の弱いところ。こんな単純なことがわからんのやから。

真田孔明：

国が計画的にとったんですか？

北野会長：

うーん、そうとも言えるし・・・

真田孔明：

売りができないからですか？

北野会長：

そうじゃなくて、持ってた株を損切りしただけなんやて。わかる？例えば株を買って持ったと。ね？

サッチェル：

そうか損切りしたのか。

真田孔明：

損切りか。

北野会長：

あんたT損切りしてないやろ？まだ。

真田孔明：

してないです。

北野会長：

だから負けがねえんやて。これTを800円で買って、600円で損切りすれば200円落ちる。

サツチェル：

なんで損切りしたんですかね？

北野会長：

ね、おかしいやろ？だから「おかしい」よ。ま、いくら素人の集団やいうてもさ、5兆円を損するか？ここに日本の経済の問題がある。おれはそう思う。

サツチェル：

確かにそうですよね。損切りしなかったら損じゃないですよ。

北野会長：

わかった？損したってことは手仕舞いしたってことやから。いや、人間は・・・あんたも株どれくらいやってるか知らんけども、落ちるやろ？落ちるときに一番の恐怖心に来るわけよ。ね？これね、本に書く馬鹿どもが良く書くセリフね。「損切りが一番大事や」と。みんな書いてある。どこの本読んでも。孔明のように人の金をピャッピャッととるやつがおるっていうことは、どっかで損しとるやつがおるっていうことよ。これが人間の証明やろがいよ。これさえわかつとれば、わかつとればやよ？ね、ブレーキは常に効くはずなんやて。これが1学期の仕事。今もう4月になったから、年度変わったから、これからおれは笠斬りの方を話をしていこうかなと思っとる。今、一山いいところ、つらいところからこう落ちとるわけや。こんな感じや。2万円越えも見た。1万5千も見た。で、今17,000円や。ね？こういうことなんやて。だからどこを見れるか。いや、株だけでも金が儲かるいう。なら株一年、一番出席率がいい二人にしたって、12回や。でやったのが6ヶ月と。

真田孔明：

去年の6月から。

北野会長：

そやろ？そんなもんなんやて。だから何を見て相場を打つか。何を見て相場を打てるか？これはねやっぱ難しいなと思うんやけど、この前は笠斬りを失敗してみんなおそらくちょっとは儲かった。やっとなるやつは。あとはそこで、その損切りせんだって言うところが第1学期や。

サツチェル：

そうです。はい。

真田孔明：

暴落で死んでないと。

北野会長：

そう。いやだからおれこの前いうたやん。でもみんな・・・そりゃどうやっか知らんよ全体は。でもおれがいうた通りにもし動いとれば、暴落では死んどらんわけや。お前2万円超えて1万5000円になっても死なんだってもうきついやろがいよ。だからおれのテーマでいつも言っとる、「命があつたら死にはせぬ」ってのはこれを言いたいわけよ。この一言を説明するがに一年掛かっと。いや本当に失礼な話やけど。ね、笑えるやろ？お前一年かかるってことはものすごい長い月日やぞ。

サッチェル：

ゴールドにも証券会社の人がいるんですけど、その人も会長の考え方とかやり方とかはほとんど聞かないって言ってましたね。やっぱり。証券会社の人そんな話は聞かないって。

北野会長：

あ、違うんやて。だから彼のメールにおれが真逆のことをいうから難しいことをいうとるんやて。で、孔明さんもそれに苦しんでるんじゃないかと。おれから言うたら、おれから言えばよ。てめえが一番狂っとるんやて。てめえは正常やと思っとるやろ？彼は自分が正常やと思っとる。北のセオリーのメンバーがみんな正常やと。で、おれは真逆やて。おれからいえばてめえの頭がおかしいんで、っていうのがおれの言い分なんやけど。

（料理が運ばれてくる）

北野会長：

でもおれはね、本当あの文章を読んで「やっぱ頭のおかしいやつばっかとおれ付き合っとったんや」ということを最近わかったわ。

真田孔明：

（笑）

北野会長：

だから真逆の人から見たらおれがおかしいんわけやろがいよ。簡単に言えば。

真田孔明：

でも世の中でそっちの方で生きてるからみんなお金がなくなっちゃうわけなんですね（笑）

北野会長：

いやいや、サッチェル、お前簡単やろ？

サッチェル：

最近わかってきたんですよ、だからまた。自分が正しいと思うことじゃないことをやるとうまくいくと。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

本当そうですね。

サッチェル：

アメリカは肉がおいしいですよ。いやでも前回の謁見ぐらいから、チビチビがうまくいって（笑）売りも、空売りも両方、両建てで。

北野会長：

本当？わかると案外簡単なんやて。で、わかるまでが難しいんやて。それこそサッチェルに「あんたキチガイじゃないか」って言われながらやよ。

サッチェル：

いやいや（笑）

真田孔明：

やっぱ普段から薄切りが本当重要ってことがわかりますよね。

サッチェル：

会長ですら一万株単位ぐらいしか買ってないですもんね。買いは。

北野会長：

そうやよ。

サッチェル：

だから僕は本当はもっと少ないのでやらないと。

真田孔明：

普段は。波を見るときは。釣りをしに行ってるみたいなもんなんですよ。

北野会長：

そうそう。だから浮きがキュッとこの瞬間を常に狙っとるということ。

真田孔明：

あれも趣味でやっとかないといけないですね、もう。

北野会長：

これ、もう文章に50回書いてあるんやて。「趣味はお仕事。道楽は貯蓄。好きな言葉は節約」ってこれぐらい言っても。おれ、孔明と会って3年ぐらい経つんやけど4年か。まだこんなことしてるもん。そりゃわからんわ。本当に。まあそれくらい簡単で難しいことをやっとする。

真田孔明：

最近なんかメンバーが、どのくらい深く抜いてるか見えるようになってきたんですよ。だから逆に僕たちあれなんですよ、「今日は10万円抜きました」ってメンバーが言ってきたら「それは深く切りすぎだよ」って言って。前に100万円最初抜いた人がいて、それやばいよって。それは深く切り込みすぎだよって。厚切りになってるよって。他人の剣筋が見えるようになってきたんです。

北野会長：

結局はね、株ってのはなんなのかっていったら銭なんやて。だから他のいろんなサイトあるやん。銭はなくても稼げるっていうサイト。うちは全然真逆や。銭のない奴は絶対勝てんが。ほってね、銭ほど恐怖を人に与える。ばーんって下がるやろ？1割で必ずみんな損切りするんやから。ね？たまに15%下がって。親死んだほど悲しんでさ、みんな売るわけや・・・ね？ところが、株を買った人はそのときみんなどう思ってるか言うたら「上がってくれ」って神頼みしてるんやであれば。

サッチェル：

してますね。

北野会長：

ところが1割上がっても、3%上がっても売れないの。3%上がったらもっと上がってくれって頼むんやて。だから必ず貧乏するんやて。人間の法則やから。ほとんどね、どの本読んでも書いてあるがね。最近の本読んでみられ。おそらく損切りが命みたいなこと書いてある。わかる？飯食って行かんなんらん奴いるわけや。だから損切りをみんなに教えとるわけよ。「損切りは命や損切りは命や」と、だからみんな騙される・・・本当にね、株で金持っとる奴は、売りで稼いで、上がりで遊んどる。

真田孔明：

あ！「売りで稼いで上がりで遊んどる」これ名言ですね！

北野会長：

いや、本当よ。

真田孔明：

いや本当この一言ですね。

サツチェル：

それがやっと最近わかってきた気が・・・

北野会長：

だからちょうどあんた2学期の初めに会うたから覚えとかれ、これ。売りで稼いで上がりで遊んどるんや。上がりってのは大体何買っとっても上がるから、遊んどっても金入る。でも売りは結構考えんといかん。だから売りのドッカンをさっきのドンドンと、こう、地震のようなところをとらんと・・・ね？やっぱ面白くないわけよ。これを取ってから上がりで遊ぶとものすごく気持ち良く遊べる。

真田孔明：

僕の場合「上がりで稼いで売りで恐怖する」みたいな（笑）6ヶ月前の自分に「その剣筋はダメだよ」って言いたいですね。

サツチェル：

ちょっと上がったら一回手仕舞いしたいよね。ちょっとでも上がったら。

北野会長：

でも、あんたはすごいところあるよ。

真田孔明：

いやいや。

北野会長：

あの台風の日。山の頂上で台風を見とったっていうから、もう孫悟空みたいなもんや。あっこで切り込んでいくと大体飛んでしまうんやて。ま、人間はだからどこで踏ん張ばっかだけや。この踏ん張りのところさえわかっとれば楽なんでない？

サツチェル：

次こそは浅斬り・・・

真田孔明：

第二シーズンはもう達人として・・・

北野会長：

これでなんかねなかなか暴落はこんよ。うまいこと。

真田孔明：

今年のようには。

北野会長：

うん。

サッチェル：

ちょっとねどーんと波を取って袈裟斬りを取って、会長に封筒を渡したいよね。

北野会長：

あーそういう日がなかのー（笑）封筒いらんから。一切れの肉でいいわ、おれ。いや、でも本
当にね、なっかなかあのドッカンはなかなかねえよ。

真田孔明：

あ一年に2回も？

北野会長：

ない。

サッチェル：

1月2月のドッカン名前ついてないですね。

北野会長：

何ショックていうの？ないの？

サッチェル：

チャイナショック、ギリシャショックとかありましたけど、1月のはまだ名前が・・・

北野会長：

ない。あれ小振りやから。大きなぶりではない小振りやから。

真田孔明：

ぶりなんですかあれでも？

北野会長：

そうそう。名前つかんのやて。リーマンショックってのはわかっとるやろ？リーマンショック
てのはこのラスベガスで作られたと言われとるんやからね。

サッチェル：

へーそうなんですか？ラスベガスで。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

あー映画でちょうど最近ね、リーマンショックの時の映画やってるの・・・

サッチェル：

見た。あれみた。

真田孔明：

あれすごい面白いよね。あれも売りだもんね、結局はね。

サッチェル：

売り売り。売りで勝った人。

真田孔明：

みんなが買ってる時に、売りの債権を作ってそれでやったんだよね。みんな馬鹿にしながら、「当たり前こんなのどうぞどうぞ」って証券会社が出して、青ざめていくみたいなね、相手が。あれもすごく上手いのは勝った後、わぁーって誰もなんなくて静かに勝って終わり方なんですよね。あれすごいなと思って。剣客の姿。会長みたいな静かに勝っていくっていう、背中

北野会長：

あのね、強い奴は騒がねえんやて。なぜか。貧乏人が一気に金持ちになると騒ぐやろ？だからそういう奴はまた必ずドツチャーンっていうがやて。ところが強い奴は勝っても静かにこう・・・肩で・・・

真田孔明：

歩いていくんですよ（笑）会長のスタイルを彷彿しましたね、あの映画見て。アメリカ作ったのすごいなと思いますけどね、あれ。誰もわぁーってならない勝った人がみんな静かにね、悲しい顔をしてるわけ、みんな。「多くの人を殺した後に私は勝った」みたいな（笑）。誰か「喜ぶな！」って言って怒られてたよね、誰かが。自分が売ってるのに・・・

サッチェル：

おれらが勝つってことは他に多くの人が・・・

真田孔明：

それぐらいの人が家を失うんだぞみたいな。剣客の姿をみましたね。

北野会長：

でもね、本当は人生ってのはみんなそなんや。だからおれはこないだあんたに「今のこの株のやつをずっと続けんといかん」いうて。今結構日本では株のサイトいっぱいみんな立ち上げたいう、結構多いやろ？だから絶対いいと思う。せいぜい1ヶ月？半年？3ヶ月？が区切りやろがいよ。ありゃどうなるかって結論だけいうと、全部失敗するがやて。みんな何が次第に持つとるかいうたら、損切りやから。あれは本を読んだ理屈や。おれからいうと理論が。あれやると100%間違いなくど底いくんやて。次株買うやろ？また10%下がるやろ？また売るんやて、そこで手仕舞いして。原資をどんどん切っていくわけや・・・わかった？

真田孔明：

そろそろ、こっちの方をいれますか？久保田を・・・

北野会長：

いいわ、なんでも・・・水代わりやから。みんな動けなくなった時に、株は跳ね上がるんでない？今もう1日の大きなアメリカの買い付け、920万株ぐらい買い上げしとったやろ？あっくらへんが売り時やろね？ヘッジファンドなら。おれが言っとるのはどういう・・・だからあんたたちからみたら真逆っていうのはそこなんやて。ヘッジファンドは仕入れるやろ？まゝ1週間か10日持ってこれぐらいの利益を抜くが。腹がいっぱいになる半分ほど担ったら利益を抜くわけや。おれが言っとるのは違う。おれは敵がいっぱいになる間の金を抜こうと、要はおちょこ。おちょこわかるやん。おれはここにおるわけや。端にな。海や、みんな。日本もアメリカもヨーロッパもユーロも増刷しとるやん、お金。それをこのここにおいて、まゝせいぜいこれグラスやな？これでこうやって自分のものにしたら早いんでないかっていうとる。

サッチェル：

外人が買ってる間にとってことですね？

北野会長：

そう！

サッチェル：

一緒に。

北野会長：

そうそう。

サッチェル：

あいつらが勝手に買っていくから半分ぐらいまで。その間にちょこちょこ便乗してちょこちょこ・・・

北野会長：

だから便乗して、ゆっくりと・・・

サツチェル：

半分までじゃないとやられちゃうから。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

これ深いこうとしちゃったらダメですよ？バケツ持って・・・ぎっくり腰になったり。

北野会長：

だからそうじゃなくて、ちびちびと、相手の顔見ながらちびちびと、「ああ大丈夫やな」と。

サツチェル：

あっちがこうかかってきたら止めればいいと。

北野会長：

あーやめると。それか一緒にそのドボンのところに行くと。

真田孔明：

あー。

サツチェル：

ドボンの時に構えればいってことなんですね。おちょこを捨てて、自分も構えれば・・・

北野会長：

それにどうやって勝てるかっていったら、もう、金しかないんやて。金がないやつは実行できないのやから。

サツチェル：

相手が売ってくるよりも、もっと大きい金を突っ込めば勝てるってことなんでもんね。

北野会長：

うん、まあそんな大きくいかんでも、ね？大きくいかんでもいい。金ってのはね、1万円でも100回勝てば100万円やろ？こういう具合な感じ。「まあ10万円で100回でええわ」いうてトットトットと。今度相手の顔がこう、値が動いてなかったら、今度は手を早く動かせば。

真田孔明：

（笑）

北野会長：

そしたらT・SB・NE・TOとか、上がっていく時は回数を余計動かすんや・・・簡単やろ？これぐらい簡単な講演をやってるのにどうしてわからんかの。

真田孔明：

それをバケツ持ってっちゃったんですよ。僕たち素人なのに（笑）

北野会長：

最初からいっとるんやよ。おちよこで汲む練習せいと。バケツ汲むと・・・まあ絶好調やからあの時は。ね、やっぱ海岸に座って・・・

真田孔明：

段々と桶になってくる（笑）バケツが。

サツチェル：

海の中だんだん入って行った（笑）

真田孔明：

そう。それでは一っと落ちちゃったみたいな。

北野会長：

すごい面白いやろ？これね、漫画にしたほうが面白い。漫画にしたら孔明最高やよ。（笑）

真田孔明：

欲張り兄さんみたいな（笑）

メンバー：

漫画はわかりやすいですね。

北野会長：

そう。漫画はわかりやすい。株のことを漫画で書いたら孔明絶対売れるよ。あのね、金ってのはすごくて、みんなね、みんないうてすべての人が興味あっから。あんたのやった台風を自分で起こすとかさ。ハワイ来た時に台風を自分で作ろうとしたんやて・・・台風やよ？なかなかすごいこと考えたよ。

真田孔明：

あれをあと数ヶ月間持ってればよかったんですけどね（笑）

北野会長：

だから、なんだかやっぱあんたは素質があるわ。

真田孔明：

真逆いく素質があるんでその真逆をやれば・・・とことん真逆をいくんですよね。だから大衆の意思を汲み取っちゃうのかもしれないです。大衆の意思を（笑）

北野会長：

そや、彼なんか注文して食べられよ。そうやのう・・・

サッチェル：

こっから先楽しくなりそう、そんな感じがするんですよ。

北野会長：

あー、やっぱ人間はさ、会う人間によって人生ってのはこう変わっていくからね。いや本当そうやよ。おれみたいな馬鹿に会ると、人生がガラッと変わっていく。「今までのなんか」いうぐらい変わる。

サッチェル：

去年の2月香港で初めて握手をさせていただいてから、ガラッと変わって・・・

北野会長：

そやる？

真田孔明：

収入アップ？

サッチェル：

全然違う（笑）

北野会長：

ちゃうんやちゃ。全く違った色に交わるわけや。だから朱に交われれば赤くなる。会った、初めて、ね？あの時に、彼は初めて会ってなんか感じたわけや。だから彼ははええわけや、感じる事が。孔明は会ってから大体2年半かブランクあるわけやから。いや、だからそれがお互いにいいところなわけや。

サッチェル：

全然もうライフスタイル、人生が変わってます。

北野会長：

そやる？

サッチェル：

全然違います。

北野会長：

だからそれはなんでかってことをまだわからん。だからおれはいつもあんたにいうんやけど、ここで脇をパッと甘くするとこの金も今までやってきたことも失うわけや。だからここでグッとこわ脇を締めてな。

サッチェル：

脇を。

真田孔明：

脇を締めて。

北野会長：

だから株も人生もいかに脇を、こうならんかなんやて。

サッチェル：

会長のおっしゃる株の話が人生につながってますよね、いろんな場面で。ここは薄切りだとか。

北野会長：

あ、ちがう、だからおれは株の本を大体読んだことないんやて。だからおれの友達がいっぱいこう株しとる人おるやろ？でもその人たちの話はおれの人生とサッチェルがいう真逆やから合ってるような感じもするんやて。おれからいえば。感じは・・・先輩やとかさ、周りの友達の話とか聞いてるとなんか合っとるような気がするんやけど、ほとんどそういう友達はほとんどもうおらんやて。2、3人はおるよ。あとみんなね、もう飛んでイスタンブールやから・・・いないの。どっかに孔明書いといて（笑）「飛んでイスタンブール」って。

真田孔明：

よく書いてます（笑）

北野会長：

本当？

メンバー：

みんな消えて無くなったって。

北野会長：

これね、半分ぐらいは自殺しておらんがやて。半分ぐらいは倒産してね、辛い思いしとる。

メンバー：

あの人最近みないなあぐらいですか？落ちぶれたんだ・・

北野会長：

そうそう。やっぱね、みんな責任感あるんやて。Dさんね、ひとつ今日の一番面白いテーマ教えてやる・・空売り。空売りわかった？空売りイコール借金なんやて。ね？空売りと借金はイコールなんやて。ね？で、まず覚えといて、脳の中にいれといて。空売りと借金はイコールなんやて。で、もう一つつけるとしたらなんとイコールなんや？だからサッチェルがいう。おれが言ってることと彼のお客さんがいうことは真逆にこう回る。サッチェルは大体時計回りに人生回るとるやつ。おれは反対周りに回るとるんや。でも回ったところってのは全部地球やから同じなんやて。だからどっちの説もあるってこと。ね？だからこの一言がわからないと・・どういうがかな。こっちでパッと切る、こうやって袈裟斬りをパッと切る。ここに二刀流っちゅうながあるんやけど、これをこうまっすぐ切れるってのはやっぱ難しいわけや。足を踏ん張らんと・・ね？まっすぐなっぺこうなっぺとっても人は斬れんぜ。人を本当に辻斬りでバッサリきりたかったら足腰を落としてやらんと。勝てんやろ？そんなお前へなちょこみたいにこんなことしてもさ、あかんやて。これがやっぱ一番難しいところ。だから現状がおそらく、この上りで、おれが思うにオリンピックまでぐらいにもう一回せいぜい5000円ぐらいの下げは。2万円から1万5000円ぐらいになったって5000円の金やで。せいぜいこんなちっちゃい5000円の波はあるかしんけれど、やっぱ2020年のオリンピックまではなんとなくダラダラと、まあ安倍さんが消費税を止めてまともにやればそれぐらい伸びるよっていうあれや。

真田孔明：

例えばあの、衆参両院選挙はやらないみたいな形に、なんか震災のせいでみたいな言っていましたよね？なんか。

北野会長：

いや、最近なんか予備選で、予備選じゃなくて新しい選挙やっとなるやろ？そこでみんな自民党負けとなるやろ？だからここで無理して勝負はせんやろ・・わかる？衆参同時選挙やってさ。一番やっぱ怖いのは共産党なんやて。

真田孔明：

あー共産党ですか。

北野会長：

いやいや共産党は各党にいうとるんやから。民主党あんたはいくら頑張っても勝ちはない。維新にも言っとる、あんたはどうしようもないやろと、メンバーおらんのやから。共産党は各県で共産党が例えばこっから出さないっていうことになれば、「今日はそっちの民主党や」となると。だからそこの政権を取りたいいうて今日本全国をツアーで回っとるんや。これはものすごいよ・・・ものすごい。おれはね、やっぱ政局を変える・・・

(料理が来る)

北野会長：

でも、ハワイにこんだけの綺麗な女の子おらんよ。やっぱ本土行ったら全然。あのニューヨーク行ったことある？おれもニューヨーク何回か行って、ニューヨーク行って高い店入ったら本当にやっぱアメリカは違うなって思うの。

真田孔明：

綺麗な子が多いんですか？

北野会長：

綺麗しか入れないの。綺麗じゃないの。綺麗しか入れない・・・いや本当に。でも一つのオーダーがおれが行った時で、嫁はんにゃ3万から4万やからね。ワンチョイスが、これがやっぱすごいよ。

真田孔明：

へー。

北野会長：

これ、えー！食事代金？みたいなこという感じやもんね。

サッチェル：

(店内をみて) へー男から寄っていったる・・・

真田孔明：

ちゃんとナンパしに来てるんですかね、あの男は。

サッチェル：

ナンパでしょ。ハグしてた。羨ましいな。

真田孔明：

あのノリ(笑)

サッチェル：

会長。話変わるんですけど、スロットは1ドルずつ入れていけばいいんですか？

北野会長：

あ、あれはだからおじさんがいうてたんは、1ドルずつ入れると最後の1ドルみたいなもんで賭けると10ドルでは出んけども、1ドルで、必ず当てる機械っちゃ置いてあるんやと。

サッチェル：

1ドルで必ず当たる機械が置いてあると。

北野会長：

置いてある。そうすると、こう例えば1ドルってのは普通の博打打ちはせんやろ？だから来てた奥さんとか子供とか最後の1ドルを入れて万が一出たらさ、やっぱ大変なもんやよ。でもね、彼、あんたラス？え、ロサンゼルスだったか。あのね、ここにきとるお客さんおるやろ？ここは一万ぐらい泊まれて、一万ぐらい遊びにきとるんやと、ね？この二万人の中に勝てる人はいくらおると思う？

メンバー：

見てましたけどそんなにいなかったですよ。

サッチェル：

どうですかね。二万人でね。

北野会長：

二万人博打やっとなんやよ。勝てる人はどれくらいいると思う？

真田孔明：

1%。

北野会長：

2万人の1%っちゃあいくらや？

サッチェル：

200人。

メンバー：

相当みてたけどあんまりいませんでした。たまたま当たるのはある・・・

北野会長：

孔明いうたのは1%？

真田孔明：

はい。

北野会長：

まあ一番近いな。

サッチェル：

へー。昨日の彼は1万円プラス？

真田孔明：

100USDですけど。

北野会長：

1%はいないんや。

真田孔明：

いないんですか？そんなに。200人もいないんですか（笑）

北野会長：

あのおじさんのデータベースからいうと、1%が一番近いんやけど、0.01%なんやと。

メンバー同：

0.01%！！（笑）

サッチェル：

奇跡じゃん！今日勝ったの。

北野会長：

あのね、一番後ろにどっかそこ歩いていくとマネーチェンジってあるがね。

サッチェル：

ありますよ。

北野会長：

だから永遠にお金を下ろしていく人はいるけど、勝ったからチェンジしてくれいう人・・・（笑）

真田孔明：

みんな少ない金額ですよ。あそこでマネーチェンジする人は。

サッチェル：

0.01%の人がどのくらい勝つんですかね？

北野会長：

いや、0.01%の人が勝つって・・・勝った金額までは知らん。でも金額からみてももっと少ないんでねえ？

サッチェル：

0.01%なんて無理だな、もう。

北野会長：

いやいや、だからあんたがいうたとおりよ。どこ見たってどっか勝ってる人いた？

メンバー：

いません。

北野会長：

そやろ。だから0.01やっていうから。

真田孔明：

すげえー。2万人で。

メンバー：

20人？

サッチェル：

2万人で2人。大勝ちですか？ちょっと勝ってるんすかね？

北野会長：

いやいや、ちがうんやて。それが小負けやち。どこに大勝ちの機械なんか置いてないんやって。

サッチェル：

あー。10万とか20万とか勝つってことですね。

メンバー：

大勝ちしたニュースとかありますもんね。ラスベガスの空港でなんか大勝ちしたっていう・・・

サッチェル：

遊びだなこれ。

北野会長：

だから博打ってのはやればやるほど負けるんよ。あの、そこにバンカープレイヤーやっとなるやろ？あんた明日来んがやから教えてあげるけど、こっちがバンカーや。こっちプレイヤーや。これがさ、おかしね？博打場では、プレイヤーが負けたら、あなたが負けたらこれ全部没収やろ？で、俺んところ来るわけや・・・バンカーの方はな。株はあんたが下がったからって没収はないやろ？

サッチェル：

ないですね。

北野会長：

ないやろ？

真田孔明：

損切りしなきゃ。

北野会長：

そう。そこなんやて。それを損切りすれば負けなんやちゃ。ね？損切りすれば負けるんやちゃ。でも損切りしないと玉は生きとるわけや。この値段までくれば、また金になるやろ。俺が言っとるのは、こんな話や。あんたがひっこんだ。ということは俺が勝ったということやろ？ね。あんたがもっと引っ込んだ。じゃあおれは、例えばあんたが2引っ込んだっていったらおれが2買ったわけや。これはシーソーゲームなわけや。だから2引っ込む、2上がる。おれが引っ込んだらあんたが2上がるわけや。ところが2上がった瞬間にあんたが±0になるわけやね。わかる？ところが株はここで手数料とらんわけや。2負けとってあんたが2上がる。ここで手数料とらんわけや。ヤクザがとったはここで手数料とったわけや。サイコロの目はここで手数料をとるわけや。だから絶対博打場は勝つわけよ。八百長なんかせんでも勝てるわけ・・・わかった？

サッチェル：

あ一手数料とるからですよ？

そう。手数料とるから。ルーレットも一緒や。ぐるぐる回してニャンコが目で0か00に入ったらお客さん全部負けや。だから下の組織では毎日若い者が0と00に入れる練習をしとる。これが・・・もっとおもしろいこと教えてあげる。これが韓国いくと、パッと回すやろ？練習しとる人が回すやん。下に磁石入っとるんや・・・磁石。ね？で、ちゃんとキューっと回ってこうやって、とととととととっていつて止まるようになってるんやて・・・わかった？あれ止まるの。滅多にやらんが。だから金額大きくなって張り込んでくるんやて。これお客さんが肥えてきて夜の3時半になると頭燃えとるチクリンパヤから。ね？で、こうやって覗くから台が目も回っとるわ。そうやって最後にこうとととととととって落ちるわけや。それがシャバやて。あんなもん全部イカサマに決まっとるんだかいね。手品師がこうやってやってさ、「はいこれ何番ですか？」っていうのと同じ。あのディーラーは、上のカード・・・こうみんな見えとるやん。上のカードから次のカードから切っとるような気がするやろ？上も切るけど下も切っとるわけや。ケツに指入れて●●●撫でてのと一緒になんやから・・・こんなんやよ。本当。全部そう。世の中は。

勝てない。

だから株でも同じ。昔の株なんてのはほとんど出来レースやったんや。今でもFXは出来レースでやられるってこう言われてる。

大きくなると。

そうそう、カルトやから。だからハワイのおじさん達は今凄いこと考えとる、本当に。大規模なことを計画しとる。

 $\wedge -_0$

頭おかしいね。

(笑) おかしいですか。

会長からみても頭おかしいですか（笑）

北野会長：

いや金持っとるから。市長とも組んどるから。やっぱああいう気分になってくるんやろうね。わしはだからやっぱり常に見ながらおじさん達の後をゆっくりと、おじさん達が崩れんだら僕も渡っていいっていうタイプやから。口は俺が先頭だ！みたいなこというとっけど、いくときはおじさんからいく。（笑）こうせんとやっぱこう長いこと生き残れんのやて。ま、俺が言い分。

サッチェル：

外人が買いで立ててる後をちびちびやるような。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

会長が一番慎重ですね。

北野会長：

そやる？よく付き合ったらおれが一番大胆やと思うんやて・・最初は。でも一番慎重なのはおれなんやて。そやる？おれは絶対深追いはせんし。常に薄切りやし。笠斬りも薄い。

真田孔明：

あと不動産とかも、こう契約しててもバサッと切りますもんね。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

あれはすごいですよね。

北野会長：

あ、東京のあれやろ？あれも切ったよおれ。

真田孔明：

はい。しかも鷹からきてるのに。

北野会長：

そうそう。ラブアンやったけ？あれ止めとったやろ？

真田孔明：

あーあっちマレーシア法人の不動産買うっていう・・・

北野会長：

そうそう。なんやたけ？

真田孔明：

ラブアン諸島のね、はい。

北野会長：

そうそう。あれもなんか気乗りせんわけやないかね。今ひとつ。そしたら今のやつ出たやろ？
ケイマン。あんなもんや。だからほとんどカンはやちゃ、おれの場合。考えとるということがない。

真田孔明：

あー、ケイマンなんか出たんですか？

北野会長：

ケイマン諸島で全部、債券でたやん。

メンバー：

あのパナマ文書ですね。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

あー。世界各国の。

北野会長：

おれはだからいつも思うがは、人間は知能じゃねえんやて。おれはカンでないかなと思う。おれは。

真田孔明：

カン（笑）

サッチェル：

囚われ通り、会長は。

真田孔明：

そのカンがない庶民（笑）カンがやっぱ一番強いんですよね。

サッチェル：

さっきもホテルに戻ろうと思って、右と左選んだんですよ。真逆でした（笑）

メンバー一同：

（笑）

真田孔明：

カンでいったら。

北野会長：

いやだから・・・やっぱいいところあるんやて。やっぱ反目うつやつがおって初めて成果がでてるんやから。彼らは、おれが思うに・・・Dさん。よく聞け。彼らは頭がいいから方程式を、方程式をやぞ、解く方法を知ってるんやて。ね？二人は。違うんやて。おれは、方程式を解くことはできんやて。でもおれは答えを知っとる・・・わかる？おれは方程式を解くことはできん（笑）でも答えはわかる。

サッチェル：

答えは正解なんですよ（笑）

真田孔明：

（笑）僕らは計算一生懸命しても・・・

サッチェル：

答えが間違ってる。

北野会長：

いや、おれはいつも感じることはそうなんやて。

サッチェル：

いや本当その通り。その感覚を、会長は一年間かけて教えてくれてるんだけど・・・

真田孔明：

その感覚を文章化するのは僕で（笑）感覚を再現するのはサッチェルだよ。

サッチェル：

僕はちょっとわかってきた。会長の想いって。今だからしっかり命綱をつけてこう構えてますよね。

真田孔明：

あ、よく命綱命綱言ってるよね。

サッチェル：

命綱をつけて。ちゃんと利確した範囲でやってますよ。

北野会長：

そう。だからそこが大事よ。これがわかると結構笠斬りも簡単なんやて。

サッチェル：

そこを越えたらもう切っちゃえばいいですもんね。

北野会長：

そうそう。

サッチェル：

ダメだ、本気外れって切ればいい。利確のなかで。

北野会長：

でも孔明にいうてもまだわからんがちゃ。彼はねあんたがいうてた。「6ヶ月したらわかる」と。6ヶ月はあれは絶対わからんぞ。

サッチェル：

確かにおっしゃるように恐くないんですよ。命綱ついてるから。笠斬りでも。

北野会長：

そう。だからそれがわかると・・・・でも今度はあんたはそれがわかると6ヶ月経ったら彼がわかると。その時に孔明がやっとなこっちの方を練習せんなんらん。こっちが楽になるとどうしてもこっちに偏りすぎるんや。

真田孔明：

ずーっと待ってる状態になっちゃうんですか？

北野会長：

そうそう。だからこれを両方の肩が軽くこう動くようになると、だからあんたが下げ、あんたが上げの方で・・・

真田孔明：

法人口座で買いと売りだけやってればいいんじゃない？（笑）でリミット決めてお互い。法人口座で。

サッチェル：

僕でも利確の範囲でしかやってない。会長の「命綱しないでバンジーするやついないだろう」っていう。

北野会長：

そういうことなんやて。

サッチェル：

半分売って利確して。

北野会長：

いやだから香港法人を作って、そこにみんなこう出資してやな、でそこで下げ相場やったらサッチェル、上げ相場やったら孔明さん。で、僕は中立やから。すごくね、すごくおれからいうと今度は二人の上げ下げをおれが真ん中におると二人が上がり下がりできるやる？今までうちの会社よく考えてみると、いい人間だけをこうやって盛り上げてきとるんやて。いい人間だけを「お前いいから社長やっとな」みたいなことをいうてきたんや。これが違うなと今度は思ったんやて。だからシーソーのように上がっても下がっても稼げるようなシステムを作らんにならん。やっぱおれは天才やねとおもって。天才バカボンやなど。

サッチェル：

いやいや。確かにそうだ。こっちが上がってる時はこっち。こっちが上がってる時はこっちと。

北野会長：

そうそう。そしたらこの上がり下がり全部食ってしまおうと。（女性を見て）いい女やね。いくつなんかの？

真田孔明：

あー、タトゥーでもガンガン入ってますね。あんな真面目そうな顔して・・・背中に。

北野会長：

不良にきまっとんだかいね。

真田孔明：

（笑）

北野会長：

Dさん、後ろの女みんな帰るよ。どれが好きやゆうて「綺麗ですね」とか言ってこにゃ。「My name is D」とかさ。「How are you?」とか「I love you!」とかさ。これ一番後ろの女はだめやからどっか前追っかけてってさ、練習せんと。株も女も練習やぞよ。

サッチェル：

だめだ、うごけないよ。

真田孔明：

すくんじゃうよね、白人をみると。

北野会長：

やっぱ常にコスト感覚は・・・株の商人やぜ。

真田孔明：

一円損してもお怒りになられるんだからね、会長は。

北野会長：

あ、おれやろ？（笑）

真田孔明：

拾うお金はいくらでもいいんですけど、落とす金はもうムカついてしょうがないんですよね（笑）

北野会長：

むかーっとくるんやて。すごい。反応はひどいよ。

真田孔明：

（笑）あ、会長お飲物は？

北野会長：

おれは・・・またワインならね。

真田孔明：

さらっとこの・・・ちょっとおいしいかどうかかわからないですけど、すみません。

北野会長：

ぐっと行こうよ。で、結局はねちっちゃい話やけどこれが一番大事・・・いや本当に。だから払う払わんは最終ゲームや。払う払わんは最終ゲーム。ただこの前もいったけど金は儲かると女は必自然的にくるんやて。本当に。

サッチェル：

それで払い続けちゃうとすぐなくなっちゃうわけですね。

北野会長：

いやいやだから一番好きな女を大事にせんならいうことは、継続して金を持たんならいうことなんやて。だからその女だけ見つめとったら金ってのは無くなってしまう。もしもし？聞こえた？だから他にも女持たんと一穴主義ってのは一番に崩れるもとなんやて。

真田孔明：

これいい言い訳ですよ。

北野会長：

言い訳だったらあかんっておれが言い分に・・・

サッチェル：

万が一ばれちゃっても「お前を守るために他にもつくって・・・」

真田孔明：

いやそれはまずいでしょ（笑）

北野会長：

（笑）いやそれはそう言うんだったら毎日、日本食ばかり食べ取られんと、たまには洋食も食べんと。

真田孔明：

だけど最終的にはおかゆがいいと。

北野会長：

やっぱお前が一番やと。そんなこといっとればいいんやて。あ、違う違う。それよりもね、裸になって寝とる時も、この前いうたやん。「まだ挿入しとらんがや」と。これからしようかなと思とったと。

サッチェル：

よくぞ止めてくれたと。

北野会長：

そうそう。「さぁ一緒に帰ろう」と。

サッチェル：

一緒に帰ろうと（笑）僕ら切り返しが無いんだよ、カッと言う。いつも「はい」「はい」ってなっちゃう。

北野会長：

いやでもね、家にいたら「はい」と「です」だけや。ハウスははい！です！「そうでしょ？」って言われたら「そうです」「引っ越しなさい」「はい」はいとですだけ。右に降っても左に降っても勝つゲームやから。これは、講義初めてやからわからんけど、傘あるやん、傘わかる？こういう傘やて。これ薄い傘やね、角度が。これは厚い傘なんやて。たったこれだけなんやて。株っちゃあこれだけなんやて、株ってのはこれだけや。これだけなんやて。ま、おそらく今日聞いて三人ぐらいわからんと思うけど、株ってのは角度だけなんやて。毎日こうやったら平行やる？こうやったら落ちんがね。これ180°から見たらどれくらい角度かわっとる？これが薄切りなんやさ。欲するとこうなるんがやて。どんどん欲する奴は最後にどうなるかっていったらいつも言うとりん度笠になる。人に顔を隠しながら生きる・・・だから難しい。

真田孔明：

どんどん深切りになってしまうと。

北野会長：

だから人間の心が出るのが、孔明さん、この欲なんやて。

真田孔明：

はい。欲で負けちゃうですね。

北野会長：

欲で負けとらんがやて。まだ負けとらんがやて。

真田孔明：

損切りしてないから負けてないんですね。

北野会長：

そう。これがね、まあまあ一期生の講義や。

サッチェル：

本当にその話聞いてなかったら絶対損切りしてますよ。こんだけ大戦があって。こんだけ下がってたら。

北野会長：

おれね、でもね、サッチェルね。ものすごい難しい話やけど、パッとこう切るやる？切った瞬間パッと逆に切れる日が来たら天才やぞ。

サツチェル：

そうですね。スパスパと。

北野会長：

でも、普通はこうやな。切りあがったら切り下がった。で、儲かるんやて。これがこの頂上で売って頂上で・・・

サツチェル：

売りをかけられたら・・・

北野会長：

これ最高やる？だからそれを磨くのが武蔵の剣や。まあそこまではなかなかおれも到達しとらんし。

サツチェル：

結構見込みありますよね。だってTの一番高値で買っちゃうぐらいですから。売ればよかった（笑）まだ塩付いてます。

真田孔明：

あの気持ちを忘れなければ。

北野会長：

いやちがうんやて。あっこで700円で損切りしとったらこの気持ちにはなれん。

サツチェル：

あ一確かに。

北野会長：

ここで持っておられた自分がおるからおれがいう・・・

真田孔明：

思い出に残るんですね？

北野会長：

そうそう。思い出の女なんやて。

（店員がワイン注文を確認して）

サッチェル：

このグラス高いんじゃない？

真田孔明：

そう。このグラス違うんだよ、形が。だからそれでね、さっきなんかチラチラみて、さっき女の子になんか注意してたよなんか。ま、いいや。何も言ってこないから。

北野会長：

これは自分が持ってきたグラスなの？

真田孔明：

これはさっきの水のグラスなんです。だから違うのわかってるんですよね。「あれどっがから来たんだろこのワインは」って

北野会長：

あー。でもまあ今回から笠切りの部門へ今回入って、来年まで続いたら次のセクションへ行こうかなと。いや、大学3年までいってあんたたち何習った？大学4年か。まだこんな3人からあやふやなこと言っとるんやよ。おれからいえばやよ。

真田孔明：

でもまだ辻斬りって本当むずかしいんで浅斬りずっとやってた方がいいですよ。数年間ぐらいいやっぱり。

北野会長：

うん、笠切りやっても辻斬りの場面が来ないかもしれんよ。ただおれがいうのは、バッカーンと落ちる日はきっと必ずあるんがやから、ま、その日に備えて角度が、さっきいうた角度が薄いほどに安全やて、上がりも下がりも。こう角度が多くなると上がりも下がりも角度がひどいわけや。ましてよう覚えといて。辻斬りってのは直下降やから。事故を落とすんやから。事故を落とす。だから一番おれが好きなのはブラックベアっていうのはそこや。こないだうちの嫁はんがおれにいうんやて。ハワイってパッと見たら円高や。だから●●●は1円、円高になればなるほど損するんやから、●●●売れ。次の朝こうやってパッと見たらまた円高なんやて。嫁に「また●●●売れ」一週間ぐらい●●●売っとったね。最初1銘柄やったんや。あんまり当たるもんで次●●●●と2銘柄。最近調子に乗って●●●と3銘柄。なぜか●●●売らんがやて。なぜか●●●は結構外国で売れとるんやて。だからそれを一週間ほどやとった。それで銭儲かったもんで3●●●●買ってね。買ったいうても1000株の話やから。1000株の話でも何百万ってなるんやから。これが株の怖いところ。ただおれはやっぱねいつも思うんやけど、すごいところはパーンて抜いてもすぐ手仕舞いするところやね・・・この早さ。おれいったかよ。朝方10円抜いて、ね？10円抜いて喜んどったが。終わった時に30円上がった。いっぱいある。そんなこと。でもね、30円を求めて10円は絶対取れんよ・・・絶対取れん。このねバカな考え方を持つようになったらもう絶対終わり。欲たましいから30円上がってOKやと思うやろ？

ここで手仕舞いできんが・・・人間は。明日もっと30円上がるんでないかと思うんやて。こっでもう終わりさ。シャブと一緒に。シャブづけやで。だから株を買った人のほとんどの人はお祈りするんやて。「あがれーあがれー」って。永遠に売れんのやから、でも永遠に売らんやちゃ。下がったら売るんやて。「なんで？」いうたらみんな「本に書いてあった」や本に書いてあったんやから。「10%の損切りは大事や」て。だからみんな打つわけよ。孔明そうやる？

真田孔明：

はい。

北野会長：

どこの本にもそうやって書いてあるんやから。サッチェルも大学で習ってきたことはそういうって書いてあったやろ。それが正しいんやて。おれからいうたら正しいんやて。おれからいえばやよ。おれはだから脳が反対に回ってるから。おれはいつも思うけど。

サッチェル：

会長と似たような考え方、同じ方向を回ってる人ってほとんど会わないんですよ。いないですよ？

北野会長：

あ、おらんね。

サッチェル：

ですよ。

北野会長：

おらんね。頭がおかしい人間てのはあんまりいないんやて。

サッチェル：

通信がよくできる人みたいな。

真田孔明：

おまえらとは通信できんと（笑）

サッチェル：

電波繋がってるのかってよく言われてる（笑）

北野会長：

孔明ですら時間がかかるんやから。

サッチェル：

なんか会って「お前わかってるなあ」みたいな人っているんですか？

北野会長：

んなあおらんがちゃの。自分でもねほんまそう思うんやて。なんかねいろんなこうちゃんとおったんやて、もともとは。

サッチェル：

人それぞれが稼いでる人ですよ。

北野会長：

そうそう。ところがね、みんないなくなるがね。おかしいなおかしいなと思うんやけど、そういう時は原因っちゃわからんがね。

サッチェル：

それでいうこと聞かないわけじゃないですか。会長が「それ無茶だからやめときなよ」ってしても「まだいけるいける」って言って潮目にさらわれちゃった人が・・・

北野会長：

あのね、みんな我を張るがね。我を張るんやて。おれの場合はね、二人がいうとっけど負けたことないっていうが。ほとんどは負けとるが。よう聞いて。一番大事なことやよ。ほとんどは負けとることが多いが。ただそんな時に損切りしない。ほって小さな利確でも利があればどんどん・・・こう。

サッチェル：

おちょこでも回数を増やすみたい。

北野会長：

回数を。ところがそこで下がった株ってのは、こう長い日々経つと必ずまた周期があるからまた戻って来るんがやて。だからハワイの波乗りみたいなもんや。これを凌ぐ力。これ、凌ぐ力なんやて。要は金さえ持てればこんなもんなんぼでも凌げれる。今日生活する金いらんがやから。下がろうと上がろうとお前関係ねえんやて。だからおれはこう二刀流を使う。上がった株を売るんやて。下がった株は持っとるんやて。これやんちゃやから。これは金持ちができること。これ絶対に負けんがやから。あのねバンカーにも張る。プレイヤーにも張ってるんやから。わかる？ね？プレイヤー勝ったらプレイヤーを売るんやから。バンカー勝ったらバンカー売っとりゃあいיןやから。簡単やぞそんなもん。別に考えるような経済じゃねえや。おれはこの間みたいなこう円高になったら●●●と、最初は●●●だけ売った。で、嫁がさ、あんたひょっとしたら・・・何やったけ？笑うセールスマンいうが見たことある？えへへへって笑うが。しっとる？笑うセールスマン。あのセールスマンは売っただけやろ？笑うセールスマンやからセールスマンは売っただけや。で、嫁がおれに言うわけよ。「あんた毎日笑うセールスマンをわらしにやれいうとるがけ？」って。おれはビックリしたんや。

真田孔明：

奥様の言葉もいつも使うの面白いですね（笑）

北野会長：

ガキはほっておれに嫌がらせを言っとる。いやだからおれは儲ける口を教えると、嫁はおれにいつも反論するがやて。だから脳でどれくらい考えられるかっていう話やから。だから常にバランスシフトを脳の中でもっとれば、ね、そういうことってのはわかるわけやから。おれの場合はね、仕事を辞めてから15年ぐらい経つやん。株だけで生きとるタイプやから。あの、株で飯食おうなんて全然おもとらんやて。だから旅して遊んどろうかなと。だからこう、どういうの？サッチェル言う前にものめりなく、後ろにものめらん・・・脳が。右にもそんなに傾かんから左にも。

真田孔明：

バランス。

北野会長：

宇宙空間に漂ってるんや。

真田孔明：

株も女性も（笑）会長よく女性に入れ込まないですよ？これ人間の生命としての感情の動きじゃないですか。会長よくそこに反抗できますね。

北野会長：

いやそうじゃなくて、やっぱおれは没落がこええんやろうね。だからどうやってコントロールするかってのを大事にしとる。

真田孔明：

あ、そっか。だから逆に会長はそれのために念じてるわけですね。「愛はあやふや。恋は恋しい」って。

北野会長：

そうそう。そうやよ。

真田孔明：

うーん。念じてなきゃ本当にそうなっちゃうよね、女って。なんで女って・・・麻薬ですよあれね。

北野会長：

弱い女がどうしてこの時代まで生きとっかいうたらね、あの●●●さきに聞くんやから。男よりも小さい女は、体力のない女はみんな生きとるやろ？あれはだから人間の真実や。

真田孔明：

女って不思議なのはなんか、この言葉だけで男をこのやる気にさせたりあげたりする力ありますよね。

北野会長：

そうそう。

真田孔明：

本当不思議ですよ。

北野会長：

いやいや、違うんやちゃ。商売の始まり知っとる？

メンバー：

売春？

北野会長：

そう。サッチェル。証明してみいよ。商売の始まりの・・・

真田孔明：

海岸を歩いてた時に男と女が会ったと。男の手には魚があったと。女には何もなかったと。

サッチェル：

どうしたらあの魚を奪えるかを考えたと（笑）かしこいってことですね、女性はね。

北野会長：

かしこいんやて。

真田孔明：

これだから言葉で男をどん底に落とすからね。不思議なんですよ。拳も何にも使わずに。

北野会長：

いやいや女はその時思ったわけよ。この大きな人間をどうやったら私の指示通りに動かせることができるかって。男はちんちんもって私は入れるもん持っとるなみたいなので、「あなたはその魚をくれ」と。「そのバナナをくれたらここへ入れてあげるよ」みたいなこというたんや。「私はあなたを襲わない」と。ここが一番大事や。「私はあなたを襲わない」や。ゾンビと、だから女との違いっちゃそこなんやて。ゾンビの女は普通の男を襲うやん。海岸であった女は襲わんだわけよ。これがやっぱアダムとイブの始まりやろがいよ。ここらがわかるとわからんとは天と地よ。

(店員がきて)

北野会長：

チェック！チップオン！

真田孔明：

チップオンって言えばいいんですね。そしたらチェックにのせてくれるんですね。

北野会長：

ああ・・・チップダウン言えば失礼やけど(笑)

サツチェル：

(笑)

北野会長：

「美味しくなかった。チップダウン」たまにいうことあっけどね。それでなんかあの支配人みたいなのがここにきた。「チップダウン」っていうたら出てくるがやて。なん言うとかかわかんけど物をいうからおれはパッとこう水をかけた。「舐めとるがか！」まさしくおれらしくない？

真田孔明：

(笑)

北野会長：

でもおれはなに言うとか相手は全然わからんがやから。じゃあおれにしたら、いやおれはほ、
感覚でやるだけやから。いやいや本当、英語はわからんし、全然わからん。

店員：

Thank you!

北野会長：

おう、サンキュー！